

POST BUS

切手収集を終わろうとした2年前、とんでもないことに気付かされた。POST BUSを移動郵便局と思いこんでいたことである。長年オーストリア切手を収集していて、「切手の日」にちなむ切手の多くにBUSが描かれていたのを移動郵便局と勝手に解釈していたのである。なんでこんなに多くの移動郵便局BUSが発車するんだろうと思いながら。ところが、ある日テレビにホルンマークをつけた豪華なBUSが乗客を乗せアルプスを走っていた。えっ！早速調べて恥ずかしくなった。POSTBUSは



移動郵便局

ヨーロッパの多くの国で路線BUSであることを知った。これには1枚のスイスの切手が影響していた。POST BUS切手の前に大型バスの移動郵便車切手を見てしまったのがいけなかった。調べてみるとなんと多くのPOSTBUSが切手に走っていることか。ドイツ、スイス、オーストリア、北欧、ほとんどの国で走っていた。古色蒼然の車、ボンネット、箱型、トラック合体型BUSが郵便物の集配と人々の移動手段としての役割を同時に果たしていたことを描いている。2009年に英国のROYAL POSTBUSは廃止された。廃止前の地方での運行は土日を除く日の午前、午後の2回、郵便集配と乗

客輸送を行っており、乗降は任意の場で乗降可能であった。一方、大陸では企業主体は変わってもPOSTBUSは健在のようだ。それにしてもなんと多くのPOSTBUS切手がドイツ、オーストリーを中心に発行されていることか。POSTBUSのチケットも面白い、フィンランド等は切手かと思誤りそうなもの、かつてのROYALPOSTBUSにいたっては切手がチケットとして使われていた。

客輸送を行っており、乗降は任意の場で乗降可能であった。一方、大陸では企業主体は変わってもPOSTBUSは健在のようだ。それにしてもなんと多くのPOSTBUS切手がドイツ、オーストリーを中心に発行されていることか。POSTBUSのチケットも面白い、フィンランド等は切手かと思誤りそうなもの、かつてのROYALPOSTBUSにいたっては切手がチケットとして使われていた。



切手が乗車券代金



切手と混同する
北欧のPOSTBUS乗車券

ヨーロッパ以外、アジアで走っていないか。やはり少なく、それらしき1台を見つけることが出来ただけだ。それもBUSかTRACKかという車がインドを走っていた。1937年郵便の輸送というテーマで発行された8種の切手(トラ等の野生動物から身を守る槍を持った郵便配達員から飛行機)のうちの1種にROLLY(大型トラック)が走っている。このトラック、形から英国人に限定で乗客を運んでいたPOSTBUSと考えたくなる。

POSTBUSの歴史は郵便輸送手段の郵便騎手、郵便馬車は紀元前まで遡らねばならない。しかし、定期的な輸送は1490年イタリア人の

民間人タクシスがハプスブルグ家と契約し始めた郵便輸送業務運行システムが最初で、この輸送がPOSTBUSのスター



セルビア

チェコ

フィンランド



ベルギー

ドイツ

ハンガリー



英国

スイス

スウェーデン

ヨーロッパ各国のPOSTBUS



馬車

牛車

徒歩

トラック



ラクダ

航空

船舶

鉄道

1937年インド郵便手段8種を描く切手のカットとBUSを兼ねると考える大型トラック



ヨーロッパ郵便事業
500年記念切手
1990年オーストリア発行

トと考えられる。このタクシス郵便、現在のオランダからドイツ、オーストリアまでをカバーし、ハプスブルグ家を繁栄させた重要な情報網となったらしく、1867年プロシア政府に買い上げられるまで続いた。このタクシス郵便は最初のヨーロッパ郵便事業

と考えられてるらしく、1990年オーストリアからヨーロッパ郵便事業500年を記念して郵便騎手を描いた切手が発行されている。このあたりがタクシス郵便が万国郵便連合の礎とも考えられていることを物語っているであろう。

タクシス郵便はタクシス家の駅制(郵便)が基本となっている。下図の様な宿駅を38km毎に設けた。これが徐々に1600年代には

15kmになり、スピードアップが図られた。この宿駅の存在は旅の姿を変えた。宿駅を利用して旅が短時間、安全、低額になったのだ。ただ当時の旅の手段は騎馬であり、POSTBUSの芽となる郵便馬車は17世紀にならないと利用できなかったようだ。また、タクシス郵便はペニーブラックに遅れること12年、1852年、私製切手も発行していた。この切手の発行を記念するタクシス郵便の郵便馬車を描いた切手がドイツから1952年に発行されている。駅制の駅舎



トウルン・ウント・タクシス
100年記念切手
1952年ドイツ発行

を描いた切手、巨万の富を得たタクシスの人物切手、更にペニーブラック125年記念にタクシス郵便切手を描くなど、ヨーロッパ大陸におけるタクシス郵便の存在の大きさを感させ、タクシス郵便馬車を今日のPOSTBUSの起源と考えさせるに十分なものである。



17世紀 ドイツバイエルン州ミュンヘン近くの
Augsburgの駅舎を描いた銅版画



フランツ・タクシス死去450年切手
1967年ドイツ発行



上記、銅版画を模したかともおもわれる
1984年ドイツ発行 切手の日の切手
タクシス郵便の郵便局



1840年世界初の切手発行125年記念する
1965年ドイツ発行の切手
ペニーブラックでなく、タクシス郵便切手を描く



トゥルン・ウント・タクシス切手3種

大陸から目をイギリスに向けてと、こちらも一人の人物によって POSTBUS の前身の郵便馬車が走り出している。表向きは郵便は馬に乗った配達夫（郵便騎手）が運ぶのが規則であった。しかし、違法であるが宿駅馬車（宿駅道路を走り運行数が多い）や駅馬車に郵便を積むことが横行していた。この実態を見て、宿駅の所有者ジョン・パーマーが、騎馬郵便配達使でなく駅馬車と郵便を一体にした馬車 (Coach) で運んだら安全、低額だと通信大臣に提案した。その結果、1784 年この郵便乗客一体馬車が時速 7 マイルで走り出した。しかし、鉄道の発達で郵便馬車は地方に限られ、自動車に引き継がれながら、1967 年公共交通機関として認められ、ランドローバー、ミニバスなど 200 位以上のルートが農村部に存在した。しかし、利用者、郵便物の減少で 2011 年には 3 つのルートが残るだけとなっていた。1985 年には郵便事業 350 年切手（15 頁左下隅）の 1 種として田舎を走る郵便バスが取り上げられていることから POSTBUS の存在は重要な郵便事業であったのであろう。

大陸での馬車の推移は国ごとに異なるようであるが、英国と異なりスイスでは民間企業として、オーストリアでは国有企業グループの一部門として公共交通機関の主要な一部門として発



Royal Mail Coach



拳手で乗車できた Royal PostBus



1984 年発行イギリス 郵便馬車制度 200 年切手 5 種発行の内の 2 種



オーストリア 1964 年発行 UPU 会議切手

中継所で郵便馬車の 馬の付け替え作業風景 ザールバッハ郵便局と 停車中 POSTBUS

展を続けているようである。この 2 つの国と北欧で運行されているバスの車両を見ると英国とは異なり、ミニバン、ミニバスは少なく、大型バスが主体となり観光客輸送の重要な足となっており、郵便輸送は少なくなっているようである。

北欧の一部では居住地状況から POSTBUS がかなり重要な役割を果たしている。そんなバスの中、前述のインドのトラックバスとそっくりのバスがスウェーデンで走っていることを知った。その POSTBUS、半分バス、半分トラックということからスウェーデンの兎と山鳥の姿をした架空の動物 **Skvader** の愛称でよばれている車があった。

恥ずかしい思いをしたおかげでヨーロッパの郵便事情をすこし知ることができ、また、明治まで馬車が存在しなかった我が国の輸送システムとその背景を負った郵便事情の特異さを思った。

Y.O

参考文献

ハプスブルグ帝国の情報メディア革命
近代郵便制度の誕生 集英社

(試しに切手を黒地ではなく、光彩で囲みました。ご意見お寄せください)



スイス、オーストリアで多く見られるホルンマーク大型バス



スウェーデンの POSTBUS



架空の動物 Skvader